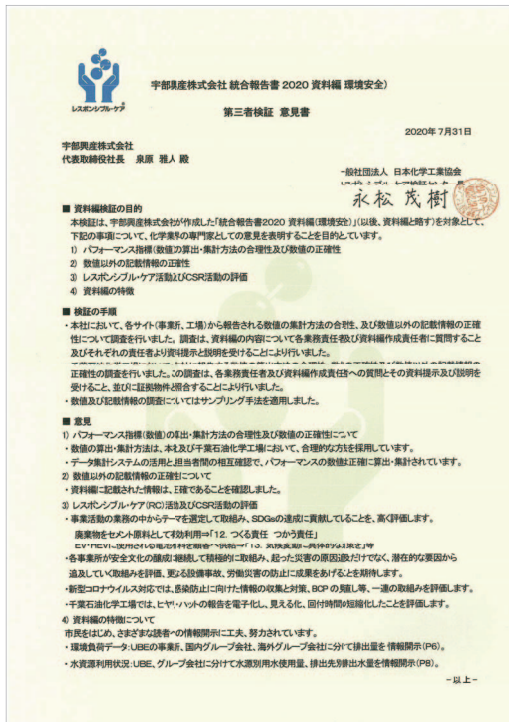


第三者意見書・報告の対象について

検証による第三者意見



● 資料編検証の目的

本検証は、宇部興産株式会社が作成した「統合報告書2020 資料編（環境安全）」（以後、資料編と略す）を対象として、下記の事項について、化学業界の専門家としての意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標（数値）の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンスブル・ケア活動及びCSR活動の評価
- 4) 資料編の特徴

● 検証の手順

● 本社において、各サイト（事業所、工場）から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、資料編の内容について各業務責任者及び資料編作成者に行いました。調査は、資料編の内容について各業務責任者及び資料編作成

責任者に質問すること及びそれぞれの責任者より資料提示と説明を受けることにより行いました。

- 千葉石油化学工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。この調査は、各業務責任者及び資料編作成責任者への質問とその資料提示及び説明を受けること、並びに証拠物件と照合することにより行いました。
- 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

● 意見

- 1) パフォーマンス指標（数値）の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について

- 数値の算出・集計方法は、本社及び千葉石油化学工場において、合理的な方法を採用しています。
- データ収集システムの活用と、担当者間の相互確認で、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。

- 2) 数値以外の記載情報の正確性について

- 資料編に記載された情報は、正確であることを確認しました。

- 3) レスポンスブル・ケア（RC）活動及びCSR活動の評価

- 事業活動の業務の中からテーマを選定して取り組み、SDGsの達成に貢献していることを、高く評価します。

廃棄物をセメント原料として有効活用⇒「12. つくる責任 つかう責任」

EV・HEVに使用される電池材料を顧客に提供⇒「13. 気候変動に具体的な対策を」等

- 各事業所が安全文化の醸成に継続して積極的に取り組み、起った災害の原因追求だけでなく、潜在的な要因から追求していく取り組みを評価、更なる設備事故、労働災害の防止に成果をあげてを期待します。
- 新型コロナウイルス対応では、感染防止に向けた情報の収集と対策、BCPの見直し等、一連の取り組みを評価します。
- 千葉石油化学工場では、ヒヤリ・ハットの報告を電子化し、見える化、回付期間の短縮化したことを評価します。

- 4) 資料編の特徴について

市民をはじめ、さまざまな読者への情報開示に工夫、努力されています。

- 環境負荷データ:UBEの事業所、国内グループ会社、海外グループ会社に分けて排出量を情報開示(P6)
- 水資源利用状況:UBE、グループ会社に分けて水源別用水量、排出先別排出量を情報開示(P8)

報告の対象について

対象期間	2019年4月1日～2020年3月31日	
環境パフォーマンスの対象会社	宇部興産株式会社 (13事業所)	化学4工場(千葉、堺、宇部、宇部藤川) セメント3工場(宇部、伊佐、荊田)、技術開発研究所 沖の山コールドセンター 基盤技術研究所、先端技術研究所、医薬研究所、大阪研究開発センター
	グループ会社 (10社)	宇部フィルム(株)、明和化成(株)、宇部エムス(有)、宇部MC過酸化水素(株)、宇部エクシモ(株)、宇部マテリアルズ(株)、宇部興産建材(株)、宇部興産機械(株)、(株)宇部スチール、(株)福島製作所
対象地域	日本国内	
本文中での表記方法	UBE:宇部興産株式会社(単独) UBEグループ:宇部興産株式会社を含むグループ会社	